

豊かな対話を求め、確かな学びに
向かう生徒を育む授業

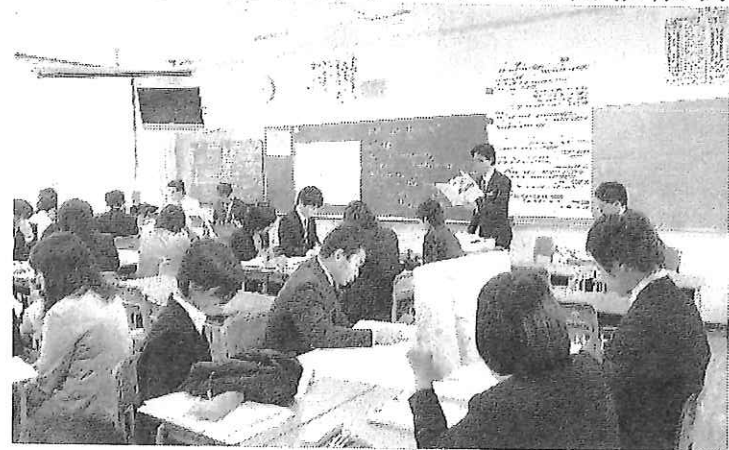
新潟大附属新潟中学校が教育研究発表会

文科省指定・教科等の本質的な学びを踏まえた主体的
・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の
視点からの学習・指導方法の改善の推進事業

新潟大学教育学部附属新潟
中学校は、10月19日に平成
30年度教育研究発表会を開催
した。写真。全国から教育関
係者約650名が集まった。研
究主題は「豊かな対話を求め、
確かな学びに向かう生徒を育
む」(2年次)。

同校では、今年度から文部科学
省の指定校として、新学習指導要
領のキーワードである「主体
的・対話的で深い学び」を具現化
するために、①意味ある文脈での
課題設定、②対話を促す工夫、③
学びの再構成を促す工夫を「確
かな学びを促す3つの重点」と
して設定し、授業づくりを推進
している。

具体的には、生徒が課題
解決過程で知識及び技能
を、さまざまな事象・現象
など(実生活につながる
要素となるもの)を
通してとらえ直し、相
互に関連付け、構造化
していくという「学び
の再構成を促す工夫」
に重点を置いている。
教育研究発表会では、
全教科・領域で授
業公開を行った。生徒
が「概念を形成する
こと」、「目的・場面に
応じて表現できるこ
と」、「他者の考えを



尊重しようとする態度」など教科等の資質・能力を発揮し、知識及び技能を相互に関連付けるように「学びの再構成を促す工夫」を全教科共通の手だてとして講じた。

また、京都大学高等教育研究開発推進センターの松下佳代氏が「資質・能力をどのように育成し、どのように評価するのか」「深い学び」を考へることを通して「をテーマに講演」「主体的・対話的で深い学び」、特に「深い学び」について新たな示唆を示した。

さらに、選択制の二つのフォーラムを開催し、新学習指導要領について幅広く考へる機会をもった。一つ目は、京都大学大学院の石井英真氏から学習評価に関する講演が行われ、二つ目は、東洋大学の後藤頭一氏がカリキュラム・マネジメントについて講演した。

問い合わせは、同校(電話025・223・8341 FAX025・223・8351 eメール fucy u@jhs.niigata.ed.niigata.ac.jp)まで。

広島大附属三原学校園が幼小中一貫教育研究会

12月2日に開催「文科省研究開発学校の成果など披露」

広島大学附属三原幼稚園・小学校・中学校の第21回幼小中一貫教育研究会が、12月2日に開催される。同校園は、昨年度まで6年間文部科学省の研究開発学校として、幼小中一貫教育に取り組んできた。さらに本年度から新たな指定を受け、研究実践を行っている。研究開発課題は「高度に競争的でグローバル化された多様性社会に適応するために求められる3つの次元(横断的な知識・レジリエンス・躍動する感性)の基礎となる資質・能力を育成する幼小中一貫教育カリキュラムの研究開発」。公開保育・授業などを通して成果の一端を披露する。

同校園は、新領域「光輝(かがやき)」を中心とした、幼小中一貫教育カリキュラムの開発に取り組んでいる。具体的には、①道徳・特別活動・総合的な学習の時間の全ての時数と各教科時数の4分の1程度を上限に含んだ新領域「光輝(かがやき)」を小学校・中学校に設置し、メタ学習理論にブレークスルー思考を取り入れた活動および単元を開発する。

②幼稚園では「光輝(かがやき) 視点の保育」で、小学校・中学校では新領域の中で3つの次元の基礎となる資質・能力の育成に取



り組む。③幼小接続期では、幼児期の終わりにまで育ててほしい姿に視点をあて、3つの次元の基礎となる幼小接続カリキュラムを開発する。

研究開発指定第1年次の今回の研究会では、公開保育・授業、協議会などを通して、主に次の2点を提案する。

(1)新領域「光輝(かがやき)」および「光輝(かがやき) 視点の保育」の実践を通した3つの次元の基礎となる資質・能力を身に付けたい子どもの育成

(2)「主体的・対話的で深い学び」を実現するための保育・学習指導の在り方

また、千葉大学特任教授の天笠茂氏による講演「これからの研究開発学校とカリキュラム開発」「のぞみ」と「かがやき」の開発をもとに、「奈良教育大学教授の横山真貴子氏による講演「幼児期の教育における主体的・対話的で深い学び」が行われる。

問い合わせは同幼稚園(電話0848・62・4642)、同小学校(電話0848・62・4238)、同中学校(電話0848・62・4777)、共通FAX(0848・60・0121)まで。